

令和5年度 大田区立六郷中学校 自己評価 報告書

令和6年3月6日

○ 本校の概要

○令和5年度9月1日現在
 ・全生徒数=432名 第1学年124名、第2学年129名、第3学年163名、特別支援学級(6組)16名
 <学校教育目標>1. 知的で感性豊かな生徒を育てる。2. 健康明朗で頑張る生徒を育てる。
 <指導の重点>1. 学力の充実に努める真剣な授業 2. 生徒の連帯を深める美しい心 3. 環境を整備するきれいな学校
 <学校スローガン>あ・じ・み あいさつをする・時間を守る・身だしなみを整える

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄							
								評価	人数	コメント					
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	生徒アンケートで「自分の学力は向上していると思う」についての回答の割合	4: 80%以上	確かな学力の定着を目標に、基礎・基本を重視して授業を実施してきた。また、コロナが第5類に移行したが、生徒の体験から得られる学びの場が少ない現状がある。	A	2	コロナ禍で思うように行かない状況があったかと思います。生徒が自分の学力向上を客観視できるような工夫をお願いできればと思います。 確かに長い間のコロナの状況から、第五類になったといっても子どもたちにとってはコロナの時の方が普通のような年月だったと思います。なかなか変化に対応するには時間がかかると思います。 コロナ禍という大変な時に中学校生活を送った生徒たちは、家庭での学習に多くの時間を費やしたのだと思うが、その中で体験などを今後に生かしてくれることを望みたい。 生徒のアンケートは低いですが教員も生徒も理解をしているので、一緒にやっていけばよいと思います。					
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1		3: 65%以上									
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4		2: 50%以上		B	4						
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2		1: 50%未満									
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		C		1							
		運動会、学習発表会(合唱コンクール)をはじめとした行事や取組において、生徒が主体的・対話的に活動できる場を設定している。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3											
		協議会でもお話が合ったように、子供たちの自らの評価で肯定感が低い。または周りの大人たち(親や先生)が褒める、喜ばせる、自信を付けさせる体験が少なく、自己の評価が分からないのでは?他人と比べて良い悪いではなく、自身が少しでも頑張ったのならそれでOK!!そして2歩交代しても3歩進めばOK!!という学校生活でありますように。							D		0				
		プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人一人の学習のつまづきや学習方法について、指導する。		4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		1	生徒アンケートの「授業の内容は理解できる」についての回答の割合		4: 80%以上	ICT環境を生かし、生徒の理解が進むような授業を目指し、大学教授を講師に招き、校内研修会を実施した。また、教育長のICT視察では、活用を促進している場面を披露することができた。 授業では理解できていると感じているが、定着には至っていない。生徒の学力を分析して、適切な支援を進めるとともに、家庭学習の習慣を身に付けられるように指導を進めていく。	A	6	ICTを活用しての授業、先生方は様々な工夫してくださっていると思います。 授業中の様子もとても落ち着いていて、生徒達も理解しているというか、スムーズな授業でよいと思います。 私の世代には無かった教育が現在行われている。教職員が生徒一人一人との向き合い方、学習等々ある中で、このアンケート結果は評価したい。 生徒は授業の内容は理解しているようなので、これを伸ばしていくように、指導をしていけばよいと思います。 先にありましたように、80%以上の子どもたちが理解しているのか?していないのか?改善策にもあるように理解をしたつもりになってはいないか?その後の応用やアレンジを加えた現場での実際の活用(授業内容の)等々、暗記で覚えて消えていかない実践を望みます。
				算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。		4:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。		1			3: 65%以上				
				学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。		4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。		1			2: 50%以上				
授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			3	1: 50%未満										
授業力を高めるためにICT機器(タブレット端末等)を積極的に活用したり、資料や教材を工夫する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			3											

プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心や育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	<p>小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。</p>	<p>4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。</p>	3	生徒アンケートの「学校の決まりをきちんと守っている」についての回答の割合	4: 80%以上	いじめ対策について生活指導部が中心となり、毎週の情報交換を実施してきた。様々な角度や関係機関と連携して事象を分析し、対応策を検討して実行することができた。	4	問題行動や不登校の状況が発生する前に、道徳を要とした生徒の心を動かし、成長させることができる指導を充実させていく。	A	6	<p>学校スローガンが生徒に浸透していると感じます。</p> <p>学校の決まりを守っているという事は、雰囲気からも分かる気がしました。</p> <p>学校行事に参加した際の印象として笑顔の生徒が非常に多く「こんにちは」の挨拶「あ・じ・み」の定着感を強く感じた。</p> <p>学校の決まりをきちんと守っている。学校内の様子を見てるとよく分かります。挨拶、身のまわりや規律をきちんと守っています。学校内もきれいできちんとしています。</p> <p>六郷中の生徒が昔に比べても「決まりをきちんと守っている」ことは十分にうかがえると思う。ただ、数%の多様な友達に理解があるのか、国籍や障がい、心の病、LGBTQなどの差別理解も含めて、多数派ならOKにならないように、心の成長を見守ってほしい、それは先生方の気持ちの現れでも同じだと思う。</p>						
		<p>道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。</p>	<p>4: 学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。</p>	2		3: 65%以上				B	1							
		<p>学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。</p>	<p>4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。</p>	3		2: 50%以上				C	0							
		<p>学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。</p>	<p>4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。</p>	4		1: 50%未満				D	0							
		<p>問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。</p>	<p>4: 必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3: 必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2: 必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1: 必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。</p>	4														
		<p>不登校生徒や欠席が多い生徒に対しては、カウンセラーや外部機関と連携し、全教職員できめ細かな対応を行う。</p>	<p>4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。</p>	3														
		プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	<p>「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。</p>		<p>4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。</p>				3	生徒アンケートの「自分の体力は向上していると思う」についての回答の割合	4: 80%以上	3	休み時間には校庭で元気に遊ぶ姿が見られている。保健体育の授業では一校一取組で持久走を実施することで、体力向上に努めた。	朝食を食べてこない生徒が一定数存在し、給食を中心とした食育指導を徹底させていく。また、給食の残菜量を減少させるために、委員会活動の活発化させていく。	A	5	<p>朝食を食べてこない生徒については家庭の問題でもあり、夜遅くまでスマホ等々によるゲーム等をしているのでは?そのため、朝起きるのが遅くなり朝食をとらずに・・・。できるのであればなお一層の体力向上に努めてほしい。</p> <p>体力は少し低下しているようだが、校庭で遊んでいるし、持久走を取り入れたりともっともっと伸びると思います。先生方がいろいろと指導をしてくださるので、もっと向上していくと思います。</p> <p>コロナ禍でも元気に校庭や部活動等で活動し、体力を向上している反面、なかなか運動しなかったり、食べない子どもたちもいると思う。協議会でも話のた正しい姿勢と歩き方をぜひ実行してくれたらうれしいです。</p>
				<p>給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。</p>		<p>4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。</p>				3		3: 65%以上				B	2	
				<p>体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。</p>		<p>4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。</p>				3		2: 50%以上				C	0	
				<p>保健体育の授業・保健指導・食育を中心に、生徒の運動・体力・健康等についての関心を高める。</p>		<p>4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。</p>				3		1: 50%未満				D	0	

